

CNES 谷戸および天神谷戸における生物多様性評価

生物環境工学科（地域環境保全学研究室） 熱方 峻
日吉 貴平

1. 研究の背景

日本列島では氾濫原の自然、里山、干潟などヒトの生活域での生物多様性の喪失が著しい。川の周りや水田、あるいは湖沼やため池に残っていた氾濫原の名残の自然は、この数十年間に実施された様々な公共工事によって環境全般の悪化や管理放棄の影響を受けて失われてきた。(鷺谷、1998)

日本大学生物資源科学部生物環境科学研究センター(以下、CNES)は建設の際、盛り土をしたことで沢が急流化して天神谷戸との水環境の連続性が失われてしまった。生物の生息地が繋がっていなければ、他へ移動できず餌のとれる範囲が限定され、また交尾の相手も限られてしまう。そこで 2012 年の CNES 谷戸の土地購入に伴って水環境の連続性に考慮し、水生生物の生息に配慮した新たな水路施工の計画がある。

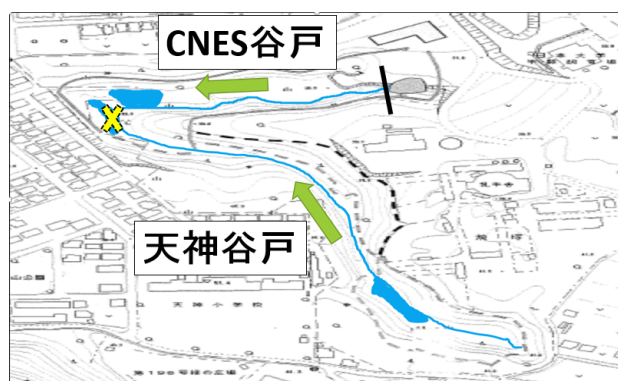


図 1：調査概要図

2. 研究の目的

水生生物の生息に配慮した新たな水路施工にあたり、現状の生物相を把握しておく必要があり、これは施工後に行うモニタリング調査の際にも必要なデータである。

そこで昨年の結果より CNES 谷戸に関しての植生、水生生物の調査は行われたが、その他の生物相は調査されていないため、本研究では、哺乳類、鳥類、昆虫類をプラスして調査していく。さらに

谷戸全体の生態系を把握するために、天神谷戸も同様に調査を行い、最終的に谷戸全体の食物網図作成を目的とする。

3. 研究の方法

3.1 哺乳類

自動調査カメラ(図 2：赤外線デジタル調査用カメラ SG860C-8M)を 3 台、A 地点は CNES 谷戸の作業路、B 地点は CNES 谷戸の池周辺、C 地点は天神谷戸の作業路(図 3)に設置し、2014 年 7 月 31 日から 11 月 1 日まで観測を行った。



図 2：自動調査カメラ

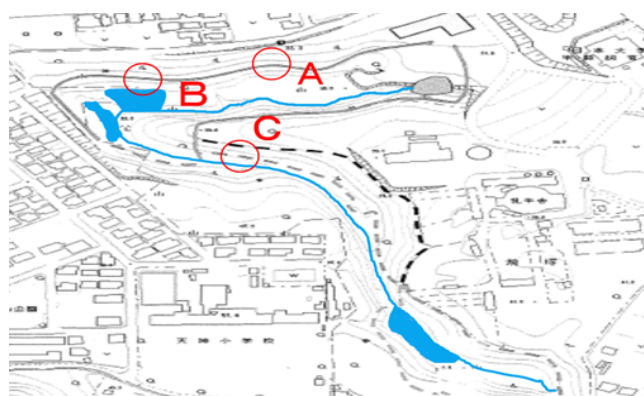


図 3：哺乳類調査地点

3.2 水生生物

2014 年 9 月 20 日、22 日、11 月 21 日に、A、B、C、D、E、F、G 地点(図 4)で水生生物調査を行った。受け網を沢の下流側に置き、上流側約 1 m²の